

ゆきぎのみち

日本古神
道研究会

二六六三年 一月十一日 横浜定例講演会

『蘇れ日本人 ― 基本編 ―』

何が日本を駄目にしたのか？

多くある駄目にしたものの

師 『蘇れ日本人』としての本来の姿に返った講座に入ります。日本はこのままで良いのだろうかということですね。現在の置かれている日本の立場というものを中心にしながら、これからのようにしていったら良いのか、という形で話を進めていきたいと思います。

まず、何が日本を駄目にしたのか、ここが一番のポイントです。細かい点を上げていけば、数限りない程ございます。皆さん自身が思い当たることを上げていけば、いっぱいあると思いますけれども、中心になる所の狂いと申しますか、何が日本を駄目にしたのか、という点で捉えていきたいと思います。

皆さんは改めて考えた時に、日本を駄目にしたのは何だと思

ますか。思いあたるものは数限りなくありますね。何が日本を駄目にしたのでしょうか。

駄目にしたものは何一つないですか。みんな良いことばかりでしょうか。もしそうなら今の世の中はもつとよくなっているはずですよ。何が駄目にしたのでしょうか。細かいことでも良いですよ。

吉森様 「教育基本法」ではないでしょうか。

理想と運用が乖離して

師 「教育基本法」が駄目なのは、いい。では、「教育基本法」にはどう書いてあるのでしょうか。第一条・目的はどうなっていますか。即答できませんか。教育基本法が駄目だと言われるようなのかなと思いますね。掲げている理念が悪いわけではないと思うんですが。しかし、運用する側が悪いということはあり得る。

会社であっても、「この会社はこういうことをして、それを通じて社会のために、あるいは国家のために尽くしたい」という風に会社の定款に書いてあった時に、それ自体が悪いわけではない。そこに書いてある内容は良いけれども、それは会社の定款に書いてあるだけで、実際に運用する人が、「人を騙してでも、とにかく金さえ儲ければ良い」として行っているという場合の、要するにその運用の問題だと思っければね。

教育基本法の理念そのものが悪いというふうには思わないです

ね。その奥に隠れているものがどうか。今言ったように書いてあるものは良いのだけれども、その奥にあるものの何を意図したかということですよ。そのところが問題だと思いますね。

他にもどんどん言って頂いて良いですよ。皆さんが、何でこんなに日本が駄目になったんだろうかということだと思うことを言うて下さい。

貝津良輔様 神様の国であるということを日本の人が忘れたという事で、外国の思想をそのまま受け入れてしまって、神仏ですとか、大自然の教えというところから離れてしまった為に基本のところを無くしてしまったのではないのでしょうか。

師 外国でも神様がいないわけじゃないよね、キリスト教的な感じではあるんでしょうけれども、いわゆる日本でいう神道との関わりではなくなったということですね。神国日本がなくなってしまっているから。

黒澤様 よろしいでしょうか。一つめが天皇様中心から外れた形、二つめが自由と権利ばかりを強調して義務を全然果たさなくなったという事を思います。

..... 中略

伝統を捨て 基盤を失った

師 たくさん挙げたから書いてみますね。一番最初が「教育基本法」、二番目に「神

国日本」というもの、三番目が「大自然の教え」、四番目が「天皇

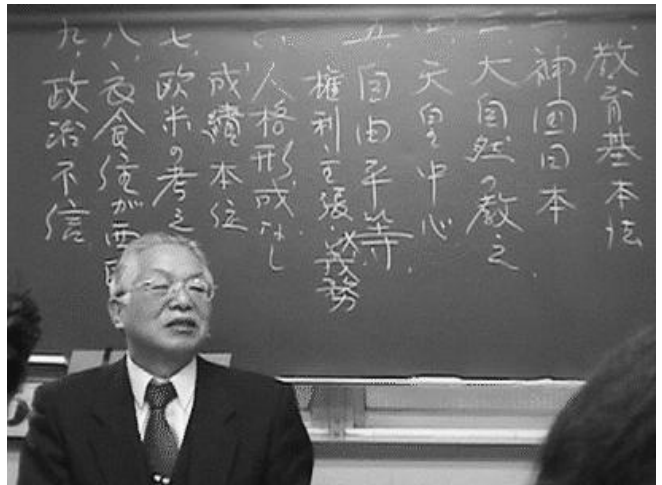
中心であったことから外れた」と。五つ目は「自由・平等ばかりで義務を果たさない」で、六つ目が「人格形成がなされていない」。

そして七つ目が「欧米の考えの強制」、八つ目が食生活、本当は衣食住ですね。食べ物もみんな違うでしょう。食べ物が西洋化。

九つ目は「政治不信」。よろしいですか。挙げていくときりがありません。いっぱいあってみんな該当するのです。しかし、中心となるものはどうかというと、「日本の伝統に従わなくなった」ことです。

一番の良さは 寛容の精神

現在は、日本の伝統というものが全く無視されている。「伝統無視」、具体的にどういふことかと言いますと、伝統といってもいっぱいあります。『敬神崇祖』であるとか、『惟神の道』とかいろいろとあるのです。



けれどもそういう『惟神の道』とか、『敬神崇祖』というのは重要な柱ではありませんけれども、伝統無視の中心となったのは何かというと、日本人の考え方というものは、そういう『敬神崇祖』とか、『惟神の道』というものを中心としながらも『寛容の精神』に基づいて、諸外国の良いところを受け入れながら、独自の文化に発展させていった。これが日本人の一番の特徴であり、良さなんです。

だから、『惟神の道』、『敬神崇祖』で、今は仏教が先祖供養をするのだという風に思われているけれども、実際には先祖供養も含めてすべてこれは神道でやってきたことです。『敬神崇祖』という中に入っていたのです。しかし、仏教の伝来によってそれもまた受け入れて独自の文化にしていく。そうした中に、これは仏教の側で日本において布教をしていくためには敬神崇祖の思想と先祖供養を取り入れなければ布教出来なかったのです。

そして、いわゆる奈良時代それから平安時代、それぞれに文化として取り入れたのです。鎌倉時代によっても五山文化というものがある。京都と鎌倉の両方に五山文化がある。建長寺であるとか、円覚寺であるとか、そういうものを全部受け入れる。

仏教伝来というと、「聖徳太子の時代に仏教が伝来してきた」とそれだけではなくて、その後もいろんな時代に色々な方が見えなくなってはいるわけですから、それぞれの時代のそういったものすべてを受け入れて、そしてまた日本の独自の文化にそれを変えていくという素晴らしさがあったのです。

【 寛 容 の 精 神 が 生 ん だ 日 本 文 化 】

● 仏教の伝来と日本文化との融合

仏教は六世紀、聖徳太子の時代に伝来して初期の布教をしましたが、それ以降も「真言宗」（九世紀、空海が唐にて恵果阿闍梨に師事し伝来）、「法相宗」（七世紀に道昭が唐にて玄奘三蔵より学び伝来）、「臨済宗」（十二世紀に栄西が宋に渡り中国臨済宗の僧から禅の教えを受けて伝来）など多くの教えを受け入れ、五山文化に代表されるような既存の文化との融合をなしました。

● 五山文化

京都・鎌倉の五山の禅寺を中心に発達した漢詩・漢文などのことを言います。栄西が宋から禅宗と文化を伝えたのがはじまりで、公家の文化とお寺などの禅宗文化が融合したもので室町時代に花開きました。

● 儒教の伝来と融合

儒教は中国の孔子にはじまる「仁」（人間らしい思いやり）と「礼」（社会の伝統的な秩序やきまり）を基本とする政治・道徳の実践を説いた教えで、日本には六世紀はじめに百済から伝来したと言われていています。日本でもこれを政治思想に取り入れられ、やがて神儒習合神道へと発展しました。